

小学校 第3学年 国語科 学習指導案

北海道新篠津村立新篠津小学校
教諭 吉成 拓人

単元名

だんらくに気をつけて読み、要点をまとめよう
『めだか』(12時間) / 『うめぼしのはたらき』含む

単元のねらい

段落の要点に気をつけて読み、わかったことや大事なことをまとめることができる。

本時のねらい

各段落の要点をつかみ、それを文章にまとめることができる。

指導時期

6月

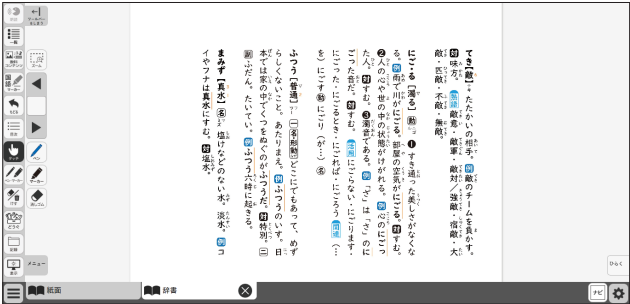
指導者用デジタル教科書(教材)活用の意図・目的

本単元では、「要点」をつかむことで、書いてある内容や筆者の主張をわかりやすく理解することができる。「要点」のおさえ方を丁寧に指導することで、第4学年の「要約」の学習などに生かせるようにしたい。

「指導者用デジタル教科書(教材)」の「デジタルメモ」を活用することで、「中心となる文」と「それを説明する文」をはっきりさせることができる。さらに、その中で取りこぼすことのできない「中心となる言葉」を抜き出すことで、要点をおさえることができる。今まで「○ページの□行め……」と説明していたことや色分けなどでぐちゃぐちゃになっていたことを、視覚的に確認することができ、すっきりと分類することができる。また、挿絵を「デジタルメモ」に抜き出し、どの段落の補助説明になっているか理解させることで、今後の資料の活用の学習に生かすことが期待できる。

本時(第5時)の展開

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
導入	●「指導者用デジタル教科書(教材)」の初期画面を開いてコンテンツを起動する。 本時の課題を知る。 ●要点をまとめる段落を焦点化するために、本時で扱う段落を音読する。	指導者用  「朗読」の活用 ●児童に音読させてもよいし、「朗読」を活用してもよい。 

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
導入	● わからない言葉を確認する。	「辞書」の活用 ● 国語辞典の使い方を学習したあとなので、わからない言葉があれば国語辞典を引かせたいが、「辞書」も活用できる。 
展開	ないようをくわしく読み、だんらくの要点をまとめよう。 各段落の要点をまとめる ① 第5段落を全体でまとめ、読み方とまとめ方を確認する。 T：第4段落に書かれている問いはなんでしょうか。 C：「どのようにして身を守っているか」です。 T：問いの答えが「中心となる文」です。 T：「中心となる文」から、まとめに必ず入れたキーワードはどれですか。 C：「水面近くでくらす」「身を守る」です。 T：「それを説明する文」にはヒントになる（共通する）言葉がありますか。 C：理由を表す「～から」があります。 T：要点がより伝わるように、「それを説明する文」から入れたいキーワードはありますか。 C：「てきさがあまりいいないから」です。 T：キーワードを使って、第5段落の要点をまとめて、書きましょう。 ② 第6～第8段落のキーワード探しを個人で行う。 ③ ペアや班で話し合う。 ④ 第6～第8段落の要点を書く。 ⑤ 全体交流で確認する。	「デジタルメモ」の活用 ● できるだけ短くまとめるために、中心となる言葉を抜き出す。また、対応する挿絵を抜き出し、児童がめだかの様子を想像する手助けにする。 ● 「国語マーカー」を活用し、「中心となる文」や「それを説明する文」をわかりやすく色分けしてもよい。 
まとめ	本時を振り返る ● ノートに本時の振り返りを記入する。 ● 振り返りを共有する。	● 「デジタルメモ」を活用しながら、振り返りの内容を交流する。

指導者用デジタル教科書(教材)を活用したことで得られた効果

「デジタルメモ」を使用することで得られる効果

- 教師は、「中心となる文」や言葉、「それを説明する文」などを、抜き出したり色分けしたりすることが容易にできる。
- 児童は、教科書のどこに着目すればよいか、どこを抜き出せばよいかなどを、見て確認することができる。
- 児童は、挿絵がどの段落と対応しているか確認することができる。

「朗読」を使用することで得られる効果

- 「朗読」を使用することで、教師による差のない音読を聞かせることができる。
- 読むことが苦手な児童が、「朗読」を聞いて内容を理解することができ、安心して学習に臨むことができる。

「辞書」を使用することで得られる効果

- 「辞書」を使用することで、国語辞典の見方を確認したり、語彙を増やす手助けにしたりできる。